

放送大学「生涯学習支援番組」(2023 年度第 3 回制作) の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下「学園」という。)のテレビ番組(以下「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2023 年度以降に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

別紙 1 のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

別紙 1~4 のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の選定、必要に応じた下見

3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、ポストプロ業務

4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集および作成。資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。なお、日本経済新聞社の著作物については使用を控えること(許諾条件の履行が困難であるため)。

5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理(音楽等一部を除く)処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書を出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。
- ・番組出演者にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記 4) の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理を行い、それに伴う費用は請負事業者が負担すること。
- ・放送(衛星、CATV 等による同時再放送を含む)・インターネット配信(学園のウェブサイト上での一般向け公開。ダイジェスト動画においては、YouTube 等外部ウェブサイト上での公開にも対応のこと)。

但し、別紙 1 の No.3「231 オーディトリウム Part4」については、ダイジェスト動画のみインターネット配信(学園のウェブサイト上での一般公開、YouTube 等外部ウェブサイト上

での公開)。

- ・学習センター等への DVD 配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理
- ・権利処理及び利用した素材（音楽及び上記 3）等に伴う出演者並びに上記 4）含む）等の記録報告を学園所定の書式（「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」）にて紙及び電子媒体で行うこと。

6) 美術セットの調達と操作

- ・大道具・小道具、生花木の調達及び操作

7) タイトル、テロップ・パターンの制作等

- ・タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
- ・CG・アニメーションの作成及び操作

番組のダイジェスト動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。

8) 番組の試写

- ・学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業

9) 放送用台本の作成、印刷

- ・放送用台本の作成及び印刷

10) 音響効果

- ・番組に関わる選曲および効果音制作等

11) スタジオ収録及び収録時の副調整室及びフロアでの指揮

- ・スタジオ収録に関わる各種伝票処理
- ・出演者・技術スタッフとの収録打合せ
- ・ドライ、カメラリハーサル
- ・学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し

12) 広報用写真の作成

- ・画像例
 - ・番組タイトル画像
 - ・各出演者のバストショット画像
 - ・出演者全員が映っている画像
 - ・番組イメージの分かるグラフィック画像等
- ・画像サイズ1920×1080、画像形式は学園プロデューサーの指示に従う
- ・学園ウェブサイトでの掲載・ニュースリリース配信等のネット利用のための著作権処理を行っているもの

13) 後処理、手直し等

- ・資料の整理
- ・伝票の整理
- ・番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
- ・納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。

14) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加

5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数

請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等

- 1) 収録は学園のテレビスタジオを使用することができる。その場合、収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
- 2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組考査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。
- 3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
 - 学園スタジオでの収録時に必要な要員（技術要員を除く）○ロケ（要員および機材）
 - オフライン編集（要員および機材）○音響効果（要員および機材）○スタジオ大道具・小道具、道具操作
 - メイク ○衣装(スタイリスト)
- 4) 上記に含まれないものについては双方で協議して決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体は XDCAM メディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全て XDCAM メディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を履行期限までに①～④を制作部へ、⑤～⑨を放送部放送管理課へ納入し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は**学園技術フォーマット**（別添の「テレビ制作技術基準」を参照）に準拠すること。

	生涯学習支援番組 (1 番組あたり)	告知用動画 (1 番組あたり)
① 放送用本番素材記録XDCAMメディア	1 本	1 本
② クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1 本	1 本
③ 番組考査試写用DVD-R	1 本	1 本
④ 番組編成業務用DVD-R	1 本	—
⑤ 放送用台本電子媒体	1 式	—
⑥ 広報用写真電子媒体	1 式	1 式
⑦著作権処理業務完了報告書※ (紙及び電子媒体)	1 式	1 式
⑧楽曲使用報告書 (紙及び電子媒体) ※	1 式	1 式
⑨出演者から受領した承諾書の 原本 ※ (「4. 番組制作業務の具体的内容、手順」の(5)を参照のこと)。	1 式	

※学園所定の書式で提出すること。

9. 番組制作業務完了の報告

請負事業者は、業務完了後「番組制作業務完了報告書」を放送部放送管理課に提出すること。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8 及び 9 の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
学園は、適法な請求書受理後、40 日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- 1) 制作した番組に関する著作権（著作権法第 27 条及び第 28 条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- 2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- 3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- 4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- 1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- 2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- 3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて 1 名以上選任し、任務に当たらせるものとする。
- 2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14. 業務の再委託等

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。
- 2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

別紙 1

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 3 番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	BS キャンパス ex 特集	情報をデザインする～デザインミュージアムへの広がり～ (45 分×1 本)	2 年 20 回	2,040.5 千円	契約締結日～ 令和 6 年 2 月 28 日
2	BS キャンパス ex 特集	デジタルアーカイブから広がる近現代史～アジア歴史資料センターの挑戦～ (45 分×1 本)	2 年 12 回	1,996.5 千円	契約締結日～ 令和 5 年 10 月 31 日
3	その他	231 オーディトリウム Part4 ～米欧映画黄金期への招待～ (135 分×4 本)	2 年 12 回	4,092 千円	契約締結日～ 令和 5 年 10 月 31 日

2. 告知用動画（放送やネット配信等で利用する 1 分間の告知用動画） 3 番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	情報をデザインする ～デザインミュージアムへの広がり～	1 本	上記 1 に含む
2	デジタルアーカイブから広がる近現代史 ～アジア歴史資料センターの挑戦～	1 本	上記 1 に含む
3	231 オーディトリウム Part4 ～米欧映画黄金期への招待～	4 本	上記 1 に含む

テレビ制作技術基準

別添

XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和3年4月1日

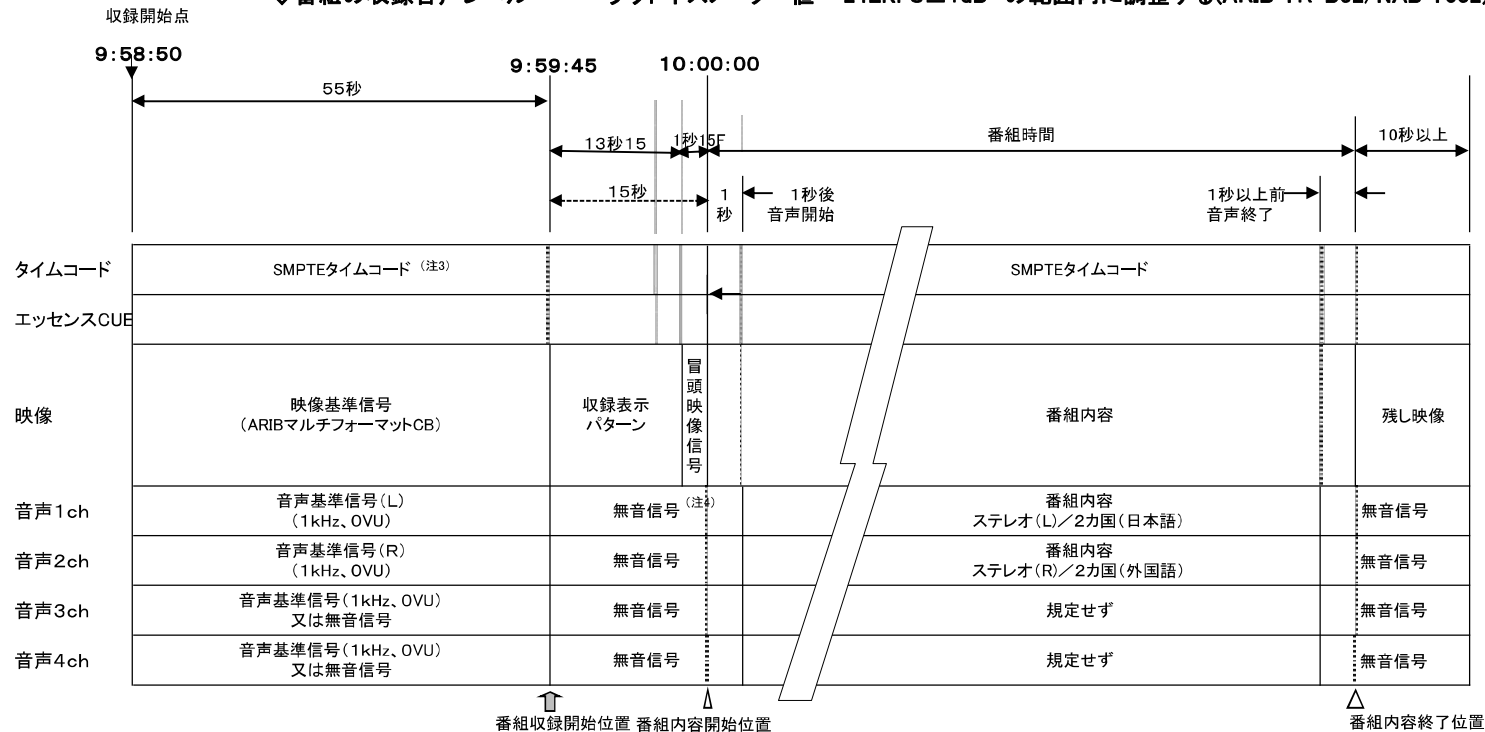
◇映像:MPEG2 422P@50Mbps

◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル

・ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで基準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU=基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
- 4: 無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリエンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別添

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送出、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1. エディウス（GrassValley EDIUS）
2. プラナス（PRUNUS）
3. アビッドメディアコンポージャー（Avid Media Composer）

※書き出し時のエンコーダは「Avid Media 4.4.」を使用すること

4. ブラックマジックデザイン（DaVinci Resolve+Main Concept）

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。

(※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル 情報をデザインする ～デザインミュージアムへの広がり～
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2年20回 インターネット配信公開講座等オンライン での展開希望	4) 番組尺、本数 45分 × 1本
5) 内容等 a. 目的・ねらい 「デザイン」という言葉の意味が広がり変化しつつある現在、日本国内では「デザイン」という言葉は多様な意味で広範に使用されている。しかし世界的に見たとき、ロンドン、パリ、ウィーン、ニューヨーク、バルセロナ、シンガポール、香港などで「デザインミュージアム」が様々な形で情報発信し存在感を増しているなか、日本には「デザインミュージアム」がまだ存在しない。 そこで「生活」、「民藝」、「工芸」、「教育」などデザインにつながるキーワードをもとに、リアルなデザインの拠点「デザインミュージアム」の必要性と可能性について考える。 この番組は2022年度に制作した「情報をデザインする ～ミュージアムの役割と可能性～」の続編として位置づける。web上のシステムをハブとしたミュージアムの連携の可能性を探った2022年度制作番組から一歩進んで。人々の暮らしや都市、社会を構築するデザイン、その拠点としてのデザインミュージアムの必要性と意義について考える。完成後は2本シリーズとしての放送を希望する。 提案者は2012年に Co Muse System: cooperative museum evolution system http://comusesystem.com を立ち上げ、学習支援に取り組んでおり、学部科目「情報デザイン」や、特に大学院科目「情報デザイン特論」では情報デザインの視点からミュージアムやパブリックアートを活用した学習支援を取り上げている。(現在の科研費: 0K00255) Key word: 被災館支援/コロナ禍における連携方法/学習支援/情報空間を活用した連携による学びの広がり	
b. 内容・構成 <u>○なぜデザインミュージアムなのか?</u> かつては専ら美術の領域で用いられていた「デザイン」は、現代では情報を介した形の見えないデザインも含め「情報デザイン」「環境デザイン」「工業デザイン」から「デザイン教育」など、社会のさまざまな領域で用いられるようになってきている。このデザインの重要性について1980年代から発信してきたのが2022年逝去したファッションデザイナーの三宅一生だ。2003年に氏が新聞に寄稿した「造ろうデザインミュージアム」は大きな反響を呼んだ。三宅はなぜ日本にデザインミュージアムが必要だと考えたのか、彼の思索をたどる。	

○デザインミュージアムはなにを目指すのか

2007年にいわばデザインミュージアムの前身として三宅が創設したのが東京ミッドタウンにある21_21 DESIGN SIGHTだ。デザインの収集、展示にとどまらず、あらゆる人の営みに関わるデザインを次世代に継承していく教育的役割を果たそうとしている。三宅とともに21_21 DESIGN SIGHTを立ち上げ現在は館長をつとめる佐藤卓氏、同じく立ち上げ時のディレクター深澤直人氏（現在日本民藝館館長）に、デザインミュージアムのとりくみ、展望と課題を聞く。

○日本の「デザイン」の系譜をたどる

人の暮らしのデザインという観点で近代の日本をみたとき「民藝」というキーワードが浮上する。21_21 DESIGN SIGHT 立ち上げ時のアソシエイトディレクター川上典李子氏は、現在、富山県美術館（Toyama Prefectural Museum of Art and Design）のディレクターをつとめ、富山の民芸や工芸にかかわる展覧会などを企画している。深澤直人氏と富山県美術館を訪ね、川上氏と副館長の桐山登士樹氏とともに、柳宗悦の民藝運動を嚆矢とし、21_21 DESIGN SIGHTにもつながる日本のデザインの系譜をたどり直す。

c. 取材対象 ロケ取材 : 有

21_21 DESIGN SIGHT（東京都港区）、富山県美術館（富山県富山市）

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

- ・ 佐藤卓（21_21 DESIGN SIGHT 館長,グラフィックデザイナー）
- ・ 深澤直人（21_21 DESIGN SIGHT 発足時よりディレクター, 多摩美術大学教授, 日本民藝館館長）
- ・ 川上典李子（21_21 DESIGN SIGHT 発足時よりアソシエイトディレクター, 富山県美術館ディレクター, ジャーナリスト）
- ・ 桐山登士樹（富山県美術館 副館長,富山県総合デザインセンター所長）
- ・ 伏見清香（放送大学教授）

6) 主体性の確保

放送大学教員（伏見）が主体となってディスカッションの内容や進行を策定することで、放送大学の主体性を担保する

7) 制作予定期間 契約締結日 ~ 令和6年2月28日

8) 演出上の特記事項 なし

9) 字幕制作希望 ☒ 有 ・ 無

(※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター

制作部：足立 圭介 放送部：三雲 節

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル デジタルアーカイブから広がる近現代史 ～アジア歴史資料センターの挑戦～
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2年12回	4) 番組尺、本数 45分 × 1本
5) 内容等 a. 目的・ねらい 「過去の歴史を直視し、正しく後世に伝える」――戦後50年を前に出された首相談話(1994年8月)を機に検討が進められ、「日本とアジア近隣諸国等との間の近現代史に関する資料及び資料情報を、幅広く、片寄りなく収集し、これを内外の研究者をはじめ広く一般に提供すること」を目的に、国立公文書館アジア歴史資料センターは設立された。世界でも先駆的なデジタルアーカイブとして2001年に設立されたアジ歴は、3200万画像以上の画像データの提供を中核としつつ、関係する諸機関とも連携して横断的な検索も可能とするなど、日本やアジアの近現代史を学ぶ上で欠かせない存在となっている。「歴史認識」問題が外交課題として注目される状況が続き、さらに高校教育で「歴史総合」が始まるなど近現代史が重視される中で、アジア歴史資料センターの役割もまたその重要性が再確認されている。 空間・時間の制約の無いデジタルアーカイブの特性は、実地での調査に制限がかかるコロナ禍で存分に発揮された。地方在住者や様々な興味関心を持つ学生を抱える放送大学にとっても、アジア歴史資料センターは親和性が高く、積極的な利活用が期待される。 本番組では、これまでのアジア歴史資料センターの取組とその可能性と課題、利用方法等から現代史における史料の在り方を考える。「歴史認識」問題にも様々な形で取り組むと共に『日本外交文書』編纂委員会委員長やアジア歴史資料センター長を務める波多野澄雄筑波大学名誉教授と、白鳥潤一郎放送大学准教授の対論をベースに、利用者から見た側面を含めて新しい時代におけるデジタルアーカイブの可能性について考えていきたい。	
b. 内容・構成 1、「アジ歴」を使ってみる アジ歴の簡単な紹介をした上で、導入として実際の画面表示をしつつ、アジ歴の検索方法や、収録文書の概要等を説明する。 2、デジタルアーカイブという「挑戦」 今では珍しくないデジタルアーカイブだが、アジア歴史資料センターはその先駆的な取組の1つであった。アジア歴史資料センター発足の背景と初期の展開(「歴史認識」問題への注目、「平和友好交流計画」、デジタルアーカイブとしての発足)を紹介しつつ、「歴史認識」問題を考える基本的な視座を確認する。 3、「包み隠さない」普及への取組	

原文書を尊重した表記方法や、検索を進める上での工夫、提供されている「グロッサリー」や対訳集、英語での検索等を説明する。

4、未来に向けて

新たな利用拡大に繋がる取組はどのようなものか。高校での歴史教育をはじめ「歴史ラーニング」「授業での資料活用」など利用の現場での姿からデジタルアーカイブのこれからを探る。

c. 取材対象 口々取材 : 有

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）
波多野澄雄アジア歴史資料センター長（筑波大学名誉教授）、白鳥潤一郎放送大学准教授

6) 主体性の確保

全体のコーディネータを放送大学白鳥准教授がすることで主体性を確保する。

7)制作予定期間 契約締結日 ～ 令和5年10月31日

8) 演出上の特記事項 なし

9) 字幕制作希望 ☐ 有 ☒ 無

(※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
足立制作部長、岡川、三雲

1) 番組名(グループ名) その他	2) 個別番組タイトル 2 3 1 オーディトリウム Part4 ～米欧映画黄金期への招待～
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2 年 12 回 国内放送権の購入のため、配信は行わない。(※ 番組宣伝は除く)	4) 番組尺、本数 映画本編+講義 計尺 135 分 x 4 (計 4 本) 『ゴールド・ディガース』(総尺 135 分)、『民衆の 敵』(総尺 135 分)、『無防備都市』(総尺 135 分) 『第三の男』(総尺 135 分)
5) 内容等 a. 目的・ねらい 現代の芸術と文化に大きな影響を与えた“映画”作品。その中から古典ハリウッド映画の代表作 12 本と 1930 年代のフランス映画の黄金時代の作品、ドキュメンタリー映画の初期代表作なども加え、全編上映と放送大学講師による分析を行う映像で語る講義<231 オーディトリウム>。 今回は第 4 回の企画を行う。 欧米の大学では、キャンパス内の大小のオーディトリウムで、講演会・コンサート・映画上映・講演などが毎日のように催され、学生・教員や地域住民に上質の文化生活を提供している。映像による授業を行う放送大学の特性を生かし、教員が参画したレクチャー上映は、上質な文化的エンターテインメントとしての訴求力と同時に、放送大学の授業への導入としての意味をもつ。 海外では既に映画学が体系化され学ばれ、我が国でも人文系の領域を中心に研究が進んでいる。例えば、モノクローム映画の全盛期の一つとして戦前・戦中・戦後期があげられるが、第二次世界大戦をめぐる社会的背景や、単に映画であるだけではなく社会史、歴史、思想史などの観点からも分析が可能である。また、文壇と映画が芸術的表現で競い合っていた時代に、文章で描けない人間ドラマ、心理の機微を映像で表現する試みがなされ、思想史と文化運動史の観点からも貴重な資料が残されてきた。 今回の企画では、宮本教授のアメリカ映画としてアメリカ編 2 本、野崎教授のヨーロッパ映画としてヨーロッパ編 2 本を提案する。それぞれ日本語字幕版でフィルム画質の良い作品素材を選んでいく。今回提案した第一候補が権利処理上そろわない場合は他候補の作品に変更する。なお、著作権が切れる 1970 年以前の映画作品は、基本的に低価格の使用料(字幕分を含む)の放送が可能である。 ・冒頭の紹介 5 分程度、映画の全編上映と映画分析の講演 30~40 分程度で構成する。	
b. 内容・構成 放送大学の AV ホールを使い、映画館(オーディトリウム)の雰囲気の中で、上映及び講演解説を行う。映画は日本語字幕版を使い放送に耐える画質のものを選択する。それぞれの映画上映時間は異なるが、上映時間に加えて冒頭 5 分程度の解説と上映後 30~40 分程度の映画分析の講演を行う。	

〈アメリカ編〉宮本陽一郎教授

本学の授業ですでに取り上げ、また著書・論文のなかで論じた映画作品を取り上げる。上映作品の解説を超えて、文化人類学と映画、アメリカ文化論・大衆文化論・映画研究など多角的なアプローチをとり放送大学の授業としての内実を持つものとする。

紹介する映画作品候補：

第一候補

○『ゴールド・ディガース』1933 年、96 分（映画上映時間）

バズビー・バークリー演出による幾何学的なレビュー・シーンにより異彩を放つミュージカル映画。同時に大恐慌期のアメリカ社会の動乱を表象する政治的な作品でもある。2003 年、アメリカ議会図書館によって「文化的、歴史的、審美的に重要」な映像作品としてアメリカ国立フィルムに登録された。

○『民衆の敵』1931 年 83 分（映画上映時間）

禁酒法時代のアメリカを舞台に悪の道へ突き進んでいく若者たちの姿を描く、古典的ギャング映画。その暴力描写・犯罪描写により、自主検閲体制をめぐる当時の論争の争点となった。

1998 年に「文化的・歴史的・芸術的にきわめて高い価値を持つ」とみなされ、アメリカ国立フィルム登録簿に登録された。

第二候補

○『駅馬車』1939 年、99 分（映画上映時間）

ジョン・フォード監督による、アメリカの西部劇映画を語る上で欠かせない名作であり、映画史を代表する傑作として高く評価されている。主演のジョン・ウェインはこの映画の演技が認められて以降はジョン・フォード監督作品の看板俳優として主演を務めていくようになり、一躍大スターになった。

○『怒りの葡萄』1940 年、128 分（映画上映時間）

ジョン・スタインベックの原作小説は、大恐慌時代のアメリカ文学を代表する作品である。1930 年代末に発生した干ばつと砂嵐を契機とした農業の機械化を進める資本家たちと、土地を追われカリフォルニアに移っていった貧困農民層との軋轢闘争を、ジョン・フォード監督がドキュメンタリー・タッチにより映画化している。

〈ヨーロッパ編〉野崎歓教授

第二次大戦直後の 1940~50 年代、ヨーロッパ映画全盛期の代表的作品。従来のオーディトリウムで紹介をしてきたフランス映画に留まらず、ヨーロッパの映画文化として様々な作品が作られた。芸術分野から才能が集まり充実した成果がもたらされた。戦争を題材とした作品を紹介しつつ、高い芸術性と戦後文化の開拓を行う貴重な証言ともなっている。

紹介する映画作品候補：

第一候補

○『無防備都市』1945 年、イタリア、100 分（映画上映時間）

ネオレアリズモと呼ばれるイタリア映画の全盛期ともいえる一時代の幕開けとなった。

戦争の現実を直視しながら映画の撮り方自体に改革をもたらしたこの作品は、世界中に衝撃を与え

た。

○『第三の男』1949年、イギリス、105分（映画上映時間）

第二次世界大戦直後のウィーンを舞台にしたフィルム・ノワール。

光と影を効果的に用いた映像美、戦争の影を背負った人々の姿を巧みに描いたプロットで高く評価されている。また、アントン・カラスのツィター演奏によるテーマ音楽や、ハリー・ライム役のオーソン・ウェルズの印象深い演技でも知られている。

第二候補

○『戦火のかなた』1946年、イタリア、134分（映画上映時間）

ロベルト・ロッセリーニ監督によるイタリアの映画。ロッセリーニの戦争3部作と呼ばれる作品群—『無防備都市』(1945)/『戦火のかたはれ』(1946)/『ドイツ零年』(1948)—の2作目。

○『どん底』1936年、フランス、95分（映画上映時間）

マクシム・ゴーリキーによる1902年の同名戯曲を原作に、舞台を公開当時のパリに変更し映画化した作品。監督はジャン・ルノワール。

○『河』1951年、フランス、105分（映画上映時間）

映画監督ジャン・ルノワールが自らインドのガンジス流域に赴いて撮り上げた独立作品。

- ・映画素材は、パブリック・ドメイン作品を取引実績のある販社から放送大学が放送使用の権利を購入し、制作会社に映像素材を支給し制作する。
- ・番組の全体尺は講師と放送大学プロデューサーの判断により、最終的な制作分数を決定する。
- ・放送大学附属図書館 AV ホールでの収録に際して、使用カメラは3台以上とする。
- ・本番組は映画素材の購入に際し、放送権の購入となるため国内での放送のみとする。

c. 取材対象 □ヶ取材 : 無

基本的に著作権期間終了の映画作品を用い、AVホールを仮想オーディトリウムとして制作する。

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

放送大学 宮本陽一郎教授、野崎歓教授

6) 主体性の確保

放送大学の講師による講義・解説で制作する。

7)制作予定期間 契約締結日 ～ 令和5年10月31日

8) 演出上の特記事項	なし
-------------	----

9) 字幕制作希望 ☐ 有 ☒ 無